**スイス・ロマンド管弦楽団**

**Orchestre de la Suisse Romande**

スイス・ロマンド管弦楽団（OSR）は、1918年にエルネスト・アンセルメによって創設された。これまで700名を超える演奏家たちが歴史を築いてきたOSRは、現在、音楽/芸術監督ジョナサン・ノットのもと、22の異なる国籍をもつ112名の固定メンバーによって構成されている。年間の総公演数は80を超え、そのうち約20公演の会場はスイス国外である。ジュネーヴとローザンヌでの定期公演はもとより、毎年恒例の「国連の日」やジュネーヴ市のためのオーケストラ公演も行い、さらにジュネーヴ大劇場でオペラも演奏している。長年にわたり、歴史的な名録音と、20世紀フランス・ロシア音楽の演奏で高い評価を得てきたOSRは、今や確固たる国際的名声を誇る。

2017年1月、イギリス人指揮者ジョナサン・ノットが音楽/芸術監督に就任。これまで、パウル・クレツキ（1967-1970）、ヴォルフガング・サヴァリッシュ（1970-1980）、ホルスト・シュタイン（1980-1985）、アルミン・ジョルダン（1985-1997）、ファビオ・ルイージ（1997-2002）、ピンカス・スタインバーグ（2002-2005）、マレク・ヤノフスキ（2005-2012）、ネーメ・ヤルヴィ（2012-2015）が音楽監督として、また山田和樹（2012-2017）が首席客員指揮者として、楽団の発展に貢献した。OSRは、現代の管弦楽曲、とりわけスイスの現代作曲家たちの作品の普及と演奏を、つねに楽団の重要な使命の一つに掲げている。実際、世界に冠たるOSRは、同時代の作曲家たちの発掘と支援を通じて、音楽史に大いに寄与してきた。これまでOSRが新作の世界初演を任された作曲家として、イーゴリ・ストラヴィンスキー、ダリウス・ミヨー、アルテュール・オネゲル、フランク・マルタン、アンドレ=フランソワ・マレスコッティ、ベンジャミン・ブリテン、ヴィトルト・ルトスワフスキ、ハインツ・ホリガー、ウィリアム・ブランク、ペーテル・エトヴェシュ、ジェイムズ・マクミラン、パスカル・デュサパン、ミカエル・ジャレルが挙げられる。

2019年に始動したアーティスト・イン・レジデンス制度は、OSRの芸術性をいっそう深めており、レジデント・アーティストたちは、シーズン中に幾度も楽団と活動を共にする機会を得ている。過去に同ポストを担ったアーティストに、作曲家のヤン・ロバン、ミカエル・ジャレル、ピアニストのフランチェスコ・ピエモンテージ、マーク・ペレノウド、ヴァイオリニストのフランク・ペーター・ツィンマーマン、クラリネット奏者のマルティン・フレスト、指揮者のダニエル・ハーディングがいる。OSRが2024/2025年シーズンにレジデント・アーティストとして迎えるのは、サクソフォン奏者のヴァランティーヌ・ミショーである。

OSRは2022年に、アシスタント・コンダクター（副指揮者）のポストも創設した。この新制度によって、有能な若手指揮者たちは、音楽/芸術監督とOSRの活動に密に携わり、演奏会のプログラミング、レコーディング、オペラ、ツアーの準備に関わる機会を得ている。OSRは2024年から、アシスタント・コンダクターを、才能ある女性指揮者に限定して募集していく方針である。

OSRは創成期から、スイス放送協会のフランス語放送局「ラジオ・テレヴィジョン・スイス（RTS）」と密な協力関係を結んできた。これにより、楽団の演奏は早くからラジオで放送され、世界中のあまたのリスナーのもとへ届けられた。またOSRは、デッカ・レーベルから100点以上の録音をリリースしており、その伝説的な名演は、国際的な音楽シーンでの楽団の地位を高めることになった。このほか、OSRが10社を超える国外のレーベルから発表した録音は、多数のレコード賞に輝いている。

世界各地でツアーも行っているOSRは、これまでにヨーロッパ（ベルリン、ロンドン、ウィーン、ザルツブルク、パリ、アムステルダム、モスクワ、サンクトペテルブルク、マドリード）、アジア（東京、ソウル、北京、上海、ムンバイ）、北米・南米の主要都市（ボストン、ニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントン、サンパウロ、ブエノスアイレス、モンテビデオ）などの一流のホールで演奏を披露している。名高い国際音楽祭からも引く手あまたのOSRは、2000年以降、ブダペスト春の音楽祭、オランジュ音楽祭、カナリア諸島音楽祭、ルツェルン・フェスティバル、同イースター音楽祭、エクス=レ=バンのロマンティックナイト・フェスティバル、ラジオ・フランス・モンペリエ音楽祭、グシュタード・メニューイン音楽祭、モントルー九月音楽祭、サンタンデール音楽祭、アムステルダムのロベコ・サマーナイト、オーストリアのグラフェネック音楽祭、ロンドンのBBCプロムスなどに出演している。またOSRは、ジュネーヴ湖畔で音楽祭を主宰し、多数の来場者たちを魅了している。2020年夏の第1回開催以来、同音楽祭には、ヨアフ・レヴァノン、マルゼナ・ディアクン、シルバ・オクテット、フランチェスコ・ピエモンテージらがゲスト出演しており、今シーズンにはジャズ・ミュージシャンのマット・ダスクが登場する。

OSRの主たる使命の一つは、未来の観客となる若い聴衆にオーケストラ音楽の魅力を伝えることにあり、若者たちを対象に幅広い活動を展開している。とりわけ、青少年たちのコンサート鑑賞の事前準備となる教育プログラムを作成するワークショップ・シリーズや、より年少の子どもたちに楽器演奏体験も提供する「Concerts pour petites oreilles（小さなお耳のためのコンサート）」、ヴィクトリア・ホールでのファミリー向け演奏会シリーズ、学校公演、児童へのリハーサル公開などを、教育局との協力で行なっている。またOSRは、毎年スイスのフランス語圏を積極的に周り、全州の児童たちに演奏を届けている。

OSRは、ジュネーヴ市、ジュネーヴ州、ヴォー州、ラジオ・テレヴィジョン・スイス、ジュネーヴおよびローザンヌのOSR友の会、そして多数の協賛企業・個人賛助会員から支援を受けている。

（約2300字）

スイス・ロマンド管弦楽団（OSR）は、1918年にエルネスト・アンセルメによって創設。現在の音楽/芸術監督は2017年からその任にあるジョナサン・ノット。これまで、クレツキ、サヴァリッシュ、シュタイン、A.ジョルダン、ルイージ、P.スタインバーグ、ヤノフスキ、N.ヤルヴィが音楽監督として、また山田和樹が首席客員指揮者として楽団の発展に貢献した。長年にわたり、歴史的な名録音と、20世紀フランス・ロシア音楽の演奏で高い評価を得てきたOSRは確固たる国際的名声を誇る。これまでストラヴィンスキー、ミヨー、オネゲル、F.マルタン、ブリテン、ルトスワフスキ、ホリガー、エトヴェシュ、デュサパン、ジャレルらの新作を初演してきた。

OSRはジュネーヴ大劇場でオペラも演奏している。

海外ツアーも多く、欧米やアジアの主要音楽都市はもとより、オランジュ音楽祭、ルツェルン・フェスティバル、モンペリエ音楽祭、ロンドンのBBCプロムスなどに出演している。またジュネーヴ湖畔で音楽祭を主宰。

OSRは創成期から、スイス放送協会のフランス語放送局「ラジオ・テレヴィジョン・スイス（RTS）」と密な協力関係を結んできたことで、その演奏は早くからラジオで放送され、世界中のリスナーのもとへ届けられた。またOSRは、デッカ・レーベルから100点以上の録音をリリースしており、その伝説的な名演は楽団の国際的な地位を高め、またその他のレーベルからの録音も多数の賞に輝いている。

2019年に始動したアーティスト・イン・レジデンス制度は、OSRの芸術性をいっそう深めており、過去に同ポストを担ったアーティストには作曲家のジャレル、ピアニストのピエモンテージ、ヴァイオリニストのF.P.ツィンマーマン、クラリネット奏者のフレスト、指揮者のハーディングらがいる。2024/25年シーズンにはサクソフォン奏者のミショーを迎える。

またOSRは2022年に、アシスタント・コンダクターのポストも創設。演奏会のプログラミング、レコーディング、オペラ、ツアーの準備に関わる機会を与えている。2024年からは才能ある女性指揮者に限定募集していく方針である。

OSRは未来の観客にオーケストラ音楽の魅力を伝える使命を掲げ、若者たちを対象に幅広い活動を展開している。とりわけコンサート鑑賞の事前準備となるワークショップ・シリーズや、より年少の子どもたちに楽器演奏体験も提供する「Concerts pour petites oreilles（小さなお耳のためのコンサート）」、ファミリー向けシリーズ、学校公演、児童へのリハーサル公開などを、教育局との協力で行なっている。

（約1000字）

スイス・ロマンド管は1918年にアンセルメによって創設。以後サヴァリッシュ、シュタイン、A.ジョルダン、ヤノフスキらが率い、現在ジョナサン・ノットが音楽/芸術監督を務める。長年にわたり、歴史的な名録音と、20世紀フランス・ロシア音楽の精緻な演奏で確固たる国際的名声を誇る。ストラヴィンスキー、ミヨー、オネゲル、F.マルタン、デュサパンらの新作を初演してきた。海外ツアーも多く、ルツェルンやBBCプロムスなどの国際音楽祭にも出演。2019年からアーティスト・イン・レジデンス制度を始め、これまで作曲家のジャレル、ヴァイオリンのF.P.ツィンマーマンらを迎えた。2022年からはアシスタント・コンダクターのポストも創設し、24年からは才能ある女性指揮者に限定募集していく方針である。未来の観客にオーケストラ音楽の魅力を伝える使命を掲げ、子どもや若者たちを対象にファミリー向けシリーズ、学校公演、児童へのリハーサル公開など幅広い活動を展開している。

（約400字）

スイス・ロマンド管は、1918年にアンセルメによって創設。以後サヴァリッシュ、シュタイン、A.ジョルダン、ヤノフスキらが率い、現在の芸術監督はノット。長年にわたり、歴史的な名録音と、20世紀フランス・ロシア音楽の演奏で確固たる国際的名声を誇る。ストラヴィンスキー、ミヨー、オネゲル、F.マルタン、デュサパンらの新作を初演してきた。海外ツアーも多く、ルツェルンやBBCプロムスなどの国際音楽祭にも出演。2019年からアーティスト・イン・レジデンス制度を始め、これまで作曲家のジャレル、ヴァイオリンのF.P.ツィンマーマンらを迎えた。2022年からはアシスタント・コンダクターのポストも創設し、24年からは才能ある女性指揮者に限定募集していく方針である。

（約300字）

スイス・ロマンド管は、1918年にアンセルメによって創設。以後A.ジョルダン、ヤノフスキ、ノットらが率い、長年にわたって歴史的な精緻な演奏と名録音で確固たる国際的名声を誇る。ストラヴィンスキー、ミヨー、オネゲル、デュサパンらの新作を初演してきた。アーティスト・イン・レジデンスでは作曲家のジャレルやヴァイオリンのF.P.ツィンマーマンらを起用。創設されたアシスタント指揮者のポストは、24年から女性指揮者に限定していく方針である。

（約200字）